

～ 【 快挙！弓道部 】 ～

先日の新聞で既にご存知とは思いますが、熊本県中体連で弓道部が、女子団体の部で優勝、学校代表女子個人戦で吉永優陽さんが優勝という、団体・個人でダブル優勝という快挙が達成されました。また女子個人戦2年生以下の部で、西村留佳さんが優勝。男子個人戦2年生以下の部で、岩崎蒼真君が第3位まで勝ち進みました。あまりにも素晴らしい成績に深く感動しました。弓道部の皆さん、本当におめでとうございます。そして弓道部の活躍を先頭にして、各部でも「弓道部に追いつき、追い越せ！」の機運が高まり、部活動が今以上に元気を持ってほしいと思います。



私も部活動を長くやっていたので、「優勝」の二文字がいかに重く、いかに遠いかよく分かります。この試合！このゲーム！このポイント！という局面で、思った通りに点数を取ることがいかに難しいことであるか。単純に練習メニューを淡々とこなせば勝てるなんて甘いものではありません。まして仲間と笑顔を交わしながら、時には雑談もしながらの練習では到底その場所へたどり着くことはできません。

部活動は(もちろん勝利至上主義はだめです。部活動に学校生活のすべてを注ぎ込むものではありません。)再び還らぬ貴重な時間を注いでやるものです。ならばせめて中体連では一勝したい、させたいと思うものです。

その一勝のために、少なくとも部活動の時間は勝利を目指して、きつい練習を積極的に受け入れ、単純な練習メニューも黙々と続け、ちょっとやそっとのことでは休まないガッツを持ってほしいと思います。その先には、きっと今まで自分でも知ることのできなかつた新しい自分との出会いが待っていると思います。

部活動の楽しさは日頃の練習で仲間とワイワイすることではありません。試合で「勝った！」と思う瞬間、頑張った自分、支えてくれた仲間、家族、先生の存在が愛おしくなり、これからも頑張ろう、みんなを支えていこうと自然に思え、そんな自分を自分で変わった、成長したと実感できるという楽しさです。自己肯定、自己受容、自己尊厳です。

明後日から夏休みです。2年生にとっても実は「最後」の夏休みです。「夏を制する者は受験を制

す。」は3年生。2年生にとっては「夏を制すものは中体連を制す。」です。中体連前の最後の夏休み、この夏にいかに練習し、力を蓄えるかで、来年の中体連の結果が大きく変わってきます。

来年の中体連では一つでも多くの部活に、今年弓道部が到達した世界を経験してほしいと思います。

～ 【 集団宿泊教室に参加して 】 ～

先週1年生の集団宿泊教室に参加しました。実行委員会の生徒を中心に、そして一年部の職員の叱咤激励の下、きびきびした行動ができた、素晴らしい集団宿泊教室になりました。

入所後、オリエンテーションがあり、所員の方が、挨拶をがんばってください、さっきあいさつした人でも、何度も挨拶をしてくださいと言われてました。

集団宿泊教室という「非日常的な空間」で学習・訓練するためには、そこで学ぶ私たちも、例えば会う度何度も挨拶をするという「非日常的な行動」をすべきなのだろうと思いました。

考えてみれば学校もまた然りです。数学、国語、歴史、地理、理科等々、一般社会では「非日常的な情報」を学習するためには、学ぶ場所も「非日常的な空間」でなければ、学ぶ行為そのものが上手いかならないように思います。

教室で先生が、数学や歴史等の「人類の文化遺産」を伝達している授業の場が、子ども達が好き勝手にスマホで遊んだり、ジュースを飲んだり、退屈したら無駄話をしたり教室から出て行ったり、そんな自由な空間であるなら、文化遺産を学ぶという高度な思考と集中力を要する営みが滞りなく成立するはずはありません。

学校で「校則」なるものが必要とされる所以もこの点にあると思います。

ただし、校則のための校則であってはなりません。学習がスムーズに行われるためには、どのような規則が必要かは、学校、地域、そして時代によって異なります。最近論議されつつある、学校職員、生徒、保護者による校則検討委員会がつけられているのも、こうした事情によるものです。

夏休みの自由気ままな生活と学習・宿題をきちんと両立できるかが、精神的成長度を見る一つの目安になります。生徒の皆さん、ファイト！

